

今に伝わる魅力 民話・伝話

禁裏御用の 亥の子餅

(木代、切畑)

応神天皇の母神
功皇后が国を治めら
れていた頃、この地で
国を揺るがす大きな戦
争がありました。神功皇
后軍は窮地に追われまし

たが、猪の群れがそこに現れ、敵方の大将を襲って皇后軍を救いました。
それを祝って毎年亥の月の亥の日にもち米と小豆でお餅をついて、御所に調進するようになりまし。明治になるまで続いていたそうです。

亥の子餅は木代と切畑の家が執り行っていたということです。今も、当時お餅をついた道具が残されています。何年前かにその行事の様子を再現されたことがあります。身を清めることから始まり、大変厳かにそして華やかに行われていたようです。出来上がったお餅は、早朝に東能勢を出発し、亀岡を経て京都に入り御所に調進したという事です。



撰津名所絵図 木代の亥の子餅



伝話 美丈夫丸

(吉川 井戸城)

源満仲の子、美丈夫丸は修行先の中山寺で勝手ばかりしており、怒った満仲は家臣の仲光に美丈夫丸を手打ちにするように命じました。仲光の一人息子幸寿丸は、自分が美丈夫丸の身代わりになると言い出しました。仲光は深く思い悩むも、ついに決心をして我が子の首を打ち、美丈夫丸を落ちのびさせました。お能の「仲光」として伝わる話です。

源満仲が後に仲光に満政（満仲の弟）の息子「源治丸」を養子に差し出します。その源治丸の為に整備されたお城が井戸城と伝わっています。美丈夫丸伝説は、その後に続く武士社会の精神的柱を作ったともいわれています。

川西市に所縁の満願寺、頼光寺（頼光は源治丸の兄、小童寺（開山は源賢僧都（幼名 美丈夫丸））があります。



井戸城址
豊能町 吉川 井戸城址



川西市 小童寺

てんぐ の松

(小判の松) (吉川)

むかし、吉川の東の山に「てんぐの松」と呼ばれた大きな松の木があったそうです。

村人がてんぐの松の方に近づいていくと、「ドンドコドン、ドンドコドン」と太鼓を打つ音が聞こえてきます。ところが、太鼓の音につられて山の奥へ入り、てんぐの松のすぐ近くまで行くとその音は急に止むそうです。

こんなことが幾度もくりかえされ、村人たちは、あれはきつとてんぐのしわざに違いないと言っようになりました。

でも、てんぐの姿を見たひとは、誰一人いかなかったそうです。

このてんぐの松は、根が三つに分かれています。形が小判に似ていたことから、こばんの松ともいわれていました。



法性寺の 影ひき 地蔵さん

(切畑)

影ひき地蔵とか金ひき地蔵とかいわれる法性寺のお地蔵さんは、昔はお寺から五百メートルほどの上、南月山の頂上におまつりしていました。山の上から西南の方には、尼崎の海も見えます。

ある日のこと、尼崎から漁師たちがやって来て「お地蔵さんから光がさして魚が逃げてしまいます。お地蔵さんを下へおろしてください」と頼みました。そこで、村の人たちはお地蔵さんをお寺の真上の中谷山までお移しました。しばらくすると、また漁師がやって来て「もっとおろしてください。」と頼むので、今の所にお移しました。すると、魚がたくさん獲れるようになり、漁師たちはお礼に、切畑・中の西へ運用（お礼金）を持ってくるようになりました。同じような話が川尻にも伝わっています（打越阿弥陀三尊石仏）。



法性寺のお地蔵さま
正和3年(1314)の紀年銘